

1月23日 児童の命をあずかる責任



毎年学童クラブの職員を対象に実施している心肺蘇生法の講習会が開かれました。救急車が駆けつける平均時間8分間心肺蘇生を実演したり、アナフィラキシーショックへ対応するエピペンの使用法などを学びました。

1月20日 與那覇朝大作 絵の寄贈



喜納昌吉萬國津梁花の会代表の喜納昌吉さんは、県出身の作家與那覇朝大氏の作品2点を本町へ寄贈しました。喜納さんは「公共施設での展示を通して與那覇氏の作品をより多くの人に見てほしい」と寄贈の思いを話しました。

1月22日 地元野菜の寄贈と小中学校で農家さんのお招き給食

JAおきなわ具志頭支店・東風平支店野菜生産部会は、町内の子どもたちに地元野菜の魅力を伝えたいとして、ピーマンやキャベツ、ジャンボインゲン、レタス等を東風平・具志頭給食センターへ寄贈し、新垣町長と大嶺次長へ寄贈の報告をしました。



栄養士さんは「食材が高騰している中、農家のみなさんが丹精込めて育てた野菜をいただけるのは大変ありがたい」と感謝していました。

町内小中学校では農家さんを招き、贈呈された野菜を使った給食を一緒に食べながら、農家さんへのインタビュー動画を見たり実際に質問をしたりして楽しく交流が行われました。

1月25日 地産地消フェア～winter～



農林水産業の振興を図ることを目的とした八重瀬町地産地消フェアがJAグリーンやえせで開催されました。南部地区和牛改良組合の牛汁とJA東風平支店青壮年部のピーマン・ジャンボインゲンの試食コーナーや野菜・花きの無料配布など多くのイベントが行われました。町内保育園の園児によるステージや関係団体のブースのほかキッチンカーの出店もあり、約3,100人が来場し、会場は大いに盛り上がりしました。

11月18・21日 ジャガイモ植え付け体験

JAおきなわ東風平支店と同支店青壮年部は、白川小学校・東風平小学校の2年生を対象にジャガイモ植え付け体験を実施しました。JA共済の地域貢献活動の一環として行い、児童らに農業の楽しさや農家との交流を深めることを目的に実施し、3月頃に収穫体験を予定しています。

今回、同支店青壮年部上間義一郎部長はじめ有志メンバーで、耕耘作業から植え付けまで行い、雑草抑制と地温効果などに配慮しマルチシートを施したふかふかの畑に、児童は一つ一つ大事そうにジャガイモの植え付けを体験しました。

同支店の富山美智江支店長は「植え付け体験を通じて、農業を身近に感じてもらいたい。ジャガイモの成長もしっかり観察し、収穫体験を楽しみにしてほしい」と呼び掛けました。



1月16日 命を守る防災

八重瀬町中央公民館具志頭分館にて、地域防災マネージャーとして活動する賀数淳さんを講師に迎え、町民向けの防災講演会が開催されました。

賀数さんは東日本大震災や令和6年能登半島地震などの被災地に何度も足を運んでいます。講演会では、避難場所ではない場所へ避難し約160名が犠牲になった釜石市の鶴住居防災センターや74名の児童と10名の教員らが犠牲になった石巻市の大川小学校の事例が紹介されました。事例から私たちが学ぶべきことや、地域の防災力を担う自主防災組織の必要性を訴えました。住民から自主防災組織を増やすためにどうすればいいかという質問には「防災意識の向上が自主防災組織をつくる。まずは防災についてこのような講演会に参加してほしい」と力強く話しました。



▲講師の賀数 淳さん

1月17日 災害に強いまちづくり

東風平小学校5年生の総合的な学習の一環として、町職員による防災講座が開かれました。

児童たちは災害の種類や防災マップの意義を事前に学習し、今回の講座で、事前学習で調べて分からなかったことや八重瀬町の取り組みについて知ったことをメモし、防災に対する理解を深めました。

講座では、八重瀬町が備えている防災テントや簡易トイレなどの防災品を実際に見て触る体験も行われました。



▲防災担当の町職員に様々な質問をする児童たち



▲非常食を見て触る



▲防災テントに入る